

研究者の不採用通知における「お祈り」通知と「ますます」通知

Insincere phrases in a rejection letter on researcher's public recruiting

植木 岳雪

Takeyuki UEKI

著者が今までに受け取った79通の不採用通知の文面を分析した結果、研究者の不採用通知は平成22～25年の方が平成11～14年よりも「お祈り」または「祈念」と、「ますます」という表現が含まれるものの割合が増加した。研究者の不採用通知は、ビジネス文書のような定型の文面を主とし、より簡素で事務的なものになってきたことがわかった。その要因として、1つの公募に対する応募者数が増えたため、採用側が応募者にも採用通知を送る際の手間を少なくするようになったことが考えられる。

1. はじめに

大学生の就職活動において、企業等から不採用になった際に、大学生は通常、不採用通知を電子メールで受け取る。不採用通知のメールは、末尾に今後の活躍、健闘、充実した学生生活などを「お祈り」申し上げますという文章が添えられており、通称「お祈り」メールと呼ばれている^{1, 2)}。「お祈りメール来た、日本死ぬ」という題名で、大学生の就職活動の負の部分に焦点を当てた新書も出されている³⁾。一方、大学、研究所、博物館などの研究職に就きたい者（ここでは、大学院生、ポスドク、ステップアップしたい研究者などを研究者と総称する）は、それらの機関が実施する公募に応募する。研究者の不採用通知は、通常、メールではなく手紙で来る場合がほとんどである。そして、大学生の「お祈り」メールと同様に、研究者の不採用通知の手紙の末尾には、「ますます」のご発展を「お祈り」申し上げますという文章が添えられており、通称「お祈り」通知や「ますます」通知と呼ばれている。

従来、大学生や研究者の不採用通知に関する研究は全くなされていない。著者の経験から、不採用通知は落胆、

怒りなどの負の感情を抱かせるものであり、それを受け取った者にとっては忘れたいもの、隠したいものである。そして、不採用通知はあえて公開するものではなく、その事例を収集することは難しいために、従来、不採用通知の研究が行われなかったと考えられる。そこで、本報告では、著者が今までに受け取った不採用通知を用いて、研究者の不採用通知の実態を明らかにすることを目的とする。そして、不採用通知に「お祈り」と「ますます」という表現が含まれる割合の時間的な変化を示し、その要因を推定する。本研究の主たる意義は、従来公表されることがなかった不採用通知の書式や文面の記載を行うことにあり、不採用通知と社会情勢の関係などには言及しない。大学生等の不採用通知の実態については、今後、本研究と同様の分析を行いたい。

2. 分析に用いた不採用通知

著者が今までに大学、短期大学、高等専門学校、研究所、市役所（博物館）の研究職の公募に応募して、不採用になった際の不採用通知を文章分析に用いた。それらは、著者が独立行政法人（現在は国立研究開発法人）産業技術総合研究所に採用される前の平成11～14年に受け取った30通と、千葉科学大学に採用される前の平成22～25年に受け取った49通の合計79通である。平成11～14年は、学会誌への掲載や各大学・研究機関への送付による公募情報の公開が主であり、平成13年に科学技術振興機構（JST）によるJREC-INの運用が開始された

連絡先：植木 岳雪 tueki@cis.ac.jp

千葉科学大学危機管理学部環境危機管理学科

*Department of Environmental Risk and Crisis Management,
Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba
Institute of Science*

(2017年9月28日受付, 2018年1月5日受理)

時期である。一方、平成22～25年はJSTによるJREC-IN Portal (<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>, 2017年12月21日閲覧)が普及し、ほとんどの大学で教員の公募がJREC-IN Portalによって行われるようになった時期である。2つの時期の間で公募情報へのアクセスがより容易になるように変化したため、1つの公募に対する応募者は激増し、公募への採用は非常に難化した。そのことは、大学教員公募についてのメモ (<http://www.geocities.jp/ryanmaryu16/>, 2017年12月21日閲覧)や大学教員公募戦線仏恥義シャキナベイバー (<http://shakeitupbabynow.web.fc2.com/index.html>, 2017年12月21日閲覧)などのwebページに、象徴的に取り上げられている。

3. 不採用通知の書式

研究者の不採用通知の典型例を図1に示す。不採用通知は、A4程度の大きさの用紙1枚に印刷されており、企業のビジネス文書と同じ書式である。すなわち、用紙の上部には文書番号、日付、宛名、差出人、公印、件名がある。それらの下に本文があり、本文は時候の挨拶、応募への御礼、不採用であること、結びの挨拶からなる。本文には、応募書類の返送・廃棄の手続き、機密保持、審査の遅れのお詫びなどが追加されることもある。ただし、研究者の不採用通知には、上記全ての内容が含まれないことがある。文書番号や公印がないものも多く、それらは組織としての公文書として取り扱われていないと思われる。

4. 不採用通知の本文

不採用通知の本文の例を表1に示す。本文は、通常5～10行程度の文章から構成されるが、文章が5行より少ない簡素なものや10行を超える丁寧なものもあり、さまざまである。

5. 不採用通知の結びの挨拶

不採用通知の結びの挨拶の全てを表2に示す。結びの挨拶がなかったものは、平成11～14年の30通のうちの18通(60%)と、平成22～25年の49通のうちの12通(24%)である。平成11～14年には結びの挨拶がないものが多かったが、逆に平成22～25年にはあるものが増えた。

結びの挨拶の中に「お祈り」または「祈念」という表現が含まれるものは、平成11～14年の12通のうちの10通(83%)、平成22～25年の37通のうちの35通(95%)である。平成11～14年よりも平成22～25年の方が、「お祈り」または「祈念」という表現が含まれる割合が高くなった。

結びの挨拶の中に「ますます」という表現が含まれるものは、平成11～14年の12通のうちの1通(8%)、平

成22～25年の37通のうちの10通(27%)である。平成11～14年よりも平成22～25年の方が、「ますます」という表現が含まれる割合が高くなったが、「お祈り」または「祈念」という表現が含まれる割合よりもはるかに低かった。

これらから、研究者が不採用通知を受け取った際には、平成11～14年よりも平成22～25年の方が「ますます」の発展を「お祈り」されて、負の感情を抱くことが多くなったと判断される。

6. 不採用通知における「お祈り」通知と「ますます」通知の割合の増加要因

平成11～14年と平成22～25年の不採用通知を比較すると、平成22～25年の方が結びの挨拶があるものの割合が増加し、「お祈り」または「祈念」と、「ますます」という表現が含まれるものの割合が増加した。すなわち、平成11～14年より平成22～25年の方が、「お祈り」通知と「ますます」通知の割合は増加している。これは、研究者の不採用通知が定型の文面からなるビジネス文書に近づいてきたことを示唆している。

ここで、不採用通知の差出人を学長・研究所長のような組織の長、学部長・研究科長・センター長のような部局の長、学科長・コース長のような学科等の長、講座主任・教務主任・人事委員長のよう担当教員、事務職員、なしの6つに区分すると、平成11～14年より平成22～25年の方が組織の長、部局の長の割合が減少し、より下の職位の教員、事務職員の割合が増加していることがわかる(表3)。また、不採用通知に公印があるものは、平成11～14年の30通のうちの21通(70%)と、平成22～25年の49通のうちの15通(31%)である。平成11～14年には公印があるものが多かったが、逆に平成22～25年には公印がないものが増えた。不採用通知に文書番号があるものは、平成11～14年の30通のうちの12通(40%)と、平成22～25年の49通のうちの8通(16%)である。平成11～14年よりも平成22～25年の方が、文書番号がないものの割合が高くなった。これらは、研究者の不採用通知がより簡素で事務的になったことを示唆している。

これらから、研究者の不採用通知における「お祈り」通知と「ますます」通知の割合が増加した要因は、採用側が応募者一人一人に不採用通知を送る際に、手間を少なくするようになったことであると考えられる。それは、「1勝100敗!あるキャリア官僚の転職記:大学教授公募の裏側」⁴⁾という新書の題名からわかるように、JSTによるJREC-IN Portalの普及により、研究者の求人情報に簡単にアクセスできるようになったことや、研究者のポストの削減と博士号取得者の増加によって、1つの公募に対する応募者が激増したことが背景にあると推測される。

7. おわりに

著者が今までに受け取った79通の不採用通知の文面を分析した結果、研究者の不採用通知は平成22～25年の方が平成11～14年よりも「お祈り」または「祈念」と、「ますます」という表現が含まれるものの割合が増加し、ビジネス文書のような定型の文面が主になってきたことがわかった。それは、採用側が多数の応募者に不採用通知を送る際の手間を少なくするようになったためと考えられる。本報告を嚆矢として、今後、不採用通知のさまざまな事例を報告することで、不採用通知を受け取った者の負の感情の軽減につなげるようにすることが、今後の展望として挙げられる。

参考文献

- 1) 飯間浩明：辞書には載らなかった不採用語辞典。PHP研究所，東京，2014.
- 2) 自由国民社：現代用語の基礎知識2017.
- 3) 海老原嗣生：お祈りメール来た，日本死ぬ 「日本型新卒一括採用」を考える。文藝春秋（文春新書），2016.
- 4) 中野雅至：1勝100敗！あるキャリア官僚の転職記：大学教授公募の裏側。光文社（光文社新書），2011.

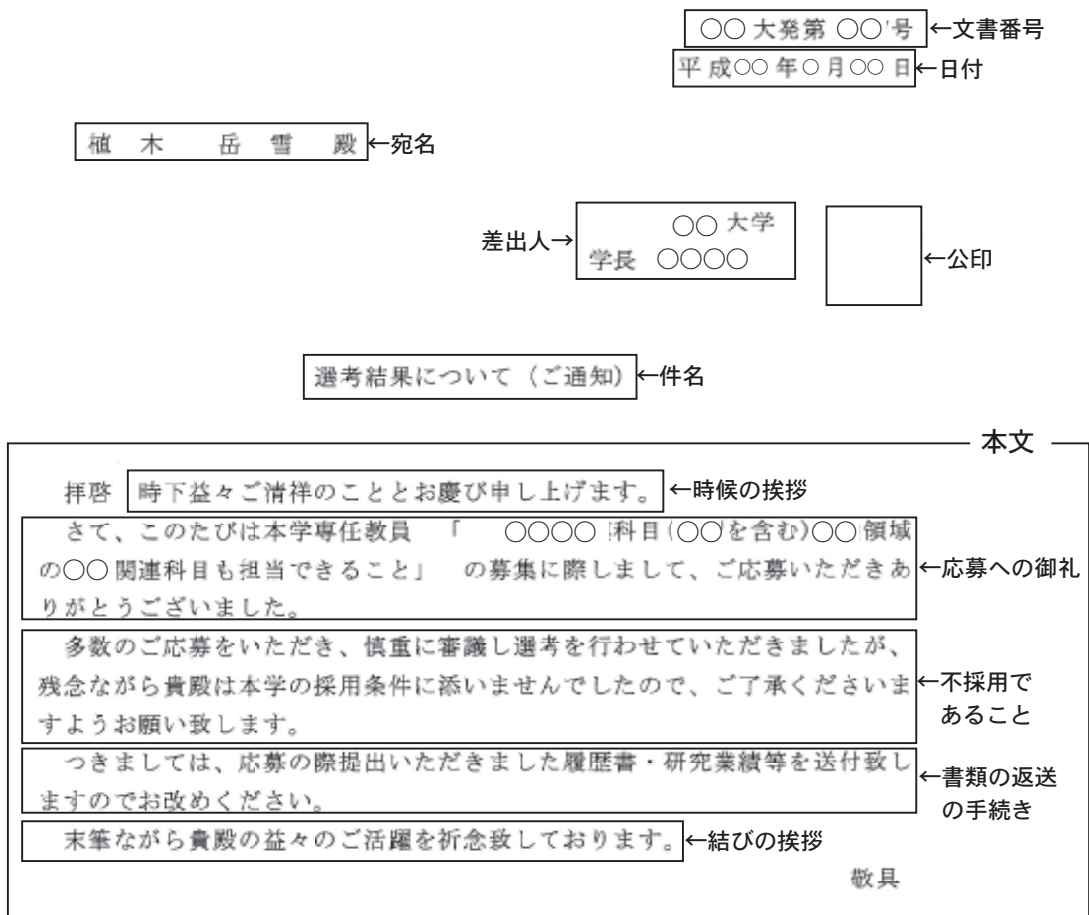


図1 研究者の不採用通知の典型例
表2の60番。

表1 不採用通知の本文の例

通常の場合
<p>謹啓 時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。</p> <p>この度は、本学〇〇学部「〇〇」の教員募集にご応募いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>慎重に選考を重ねた結果、誠に残念ながら貴意に添いかねることになりました。何卒、ご諒解くださいますようお願い申し上げます。</p> <p>末筆ながら、益々のご活躍をお祈りいたします。</p> <p style="text-align: right;">(表2の63番)</p>
<p>拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。</p> <p>さて、この度は本学〇〇学部教員公募にご応募いただき誠にありがとうございました。厳正なる選考の結果、残念ながら採用を見送りましたことをご通知いたします。</p> <p>ご志望に添うことができませんでしたが、何卒ご理解の程宜しくお願いいたします。</p> <p>つきましては、ご応募に際し、お預かりしました教員個人調書・業績書等返却いたしますのでご査収ください。</p> <p>末筆ではありますが、植木岳雪様のより一層のご活躍をお祈りいたします。</p> <p style="text-align: right;">敬具 (44番)</p>
<p>謹啓</p> <p>時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。</p> <p>さて先般は〇〇学部〇〇学科の公募にご応募いただき、誠にありがとうございました。その後、慎重に審査させていただきました。</p> <p>しかしながら貴意に添いがたいとの結論に達しました。</p> <p>なおご提出いただいた書類に関しましては、個人情報管理に留意し、適切に処理させていただきます。</p> <p>今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">謹白 (67番)</p>
<p>この度は〇〇大学〇〇研究科（並びに〇〇研究センター）の教員公募に応募していただき、誠にありがとうございました。公募要領に従い厳正に審査しました結果、採用には至りませんでした。</p> <p>応募者多数のため、今回は残念ながら上記の結果となりましたが、引き続きご支援くださいますよう、お願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">(47番)</p>
<p>拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。</p> <p>さて、先般は、本学の〇〇学部（〇〇）教員公募に対しましてご応募頂き、誠に有難うございました。</p> <p>厳正な審査をした結果、残念ながら貴意に添えないこととなりましたのでご通知申し上げます。</p> <p>ご応募頂きましたこと、重ねてお礼申し上げますと共に、貴殿のますますのご活躍をお祈り申し上げます。</p> <p>なお、本通知をもちまして本学〇〇学部教員公募は終了いたします。お問い合わせ等には一切お答えいたしませんのでご了承下さい。</p> <p style="text-align: right;">敬具 (73番)</p>

表1 つづき

簡素な例
<p>さきに、本学教官採用の公募の折には、御応募いただき誠にありがとうございました。</p> <p>さて、この度の応募者につき慎重な選考をいたしましたが、今回は不本意ながら貴意に添い得ぬ結果となりましたので、悪しからず御了承願います。</p> <p style="text-align: right;">(6番)</p>
<p>先に応募のありました〇〇研究所〇〇研究室研究員の選考について書類選考の結果、貴兄は不合格となりました。</p> <p style="text-align: right;">(10番)</p>
丁寧な例
<p>前略</p> <p>この度は、〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇コースの教員公募に応募いただき、誠にありがとうございました。予想を上回る多数の方からの応募があったこと、そして、厳正かつ慎重な審査を行ったため、予定以上に時間がかかってしまいました。そのため審査結果をご報告するのが大変遅くなってしまいました。このことについては、心からお詫び申し上げます。事情をご理解いただき、ご容赦いただけますよう、何卒お願い申し上げます。</p> <p>さて、審査結果ですが、誠に残念ではありますが、今回は貴殿のご希望には添えないとの結論になりました。ここに、応募書類一式をご返却しますとともに、ご報告させていただきます。応募から長時間お待ちいただきながら、大変申し訳ないご報告で心苦しい限りですが、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。また、審査過程において、ご提出いただきました書類の一部に書き込みをしたものがあります。審査の都合上、どうしても必要であったための措置でありましたことを、何卒ご理解いただきお許し下さい。</p> <p>最後に、今回の教員公募に募集していただきましたこと、コース教員一同を代表し改めて御礼申し上げます。また、貴殿の研究が今後ますます発展されますことを心から祈念しております。</p> <p style="text-align: right;">草々</p> <p style="text-align: right;">(49番)</p>
<p>拝啓、立春を過ぎ、受験のシーズンとなりましたが、貴殿におかれましても、その後も御研究に励んでいらっしゃるかと推察申し上げます。</p> <p>さて、このたびは〇〇大学〇〇学部〇〇教室の〇〇ポストへの公募に応募していただき、ありがとうございました。先にお知らせしましたように、合計〇〇名という大勢の方に応募していただきました。提出していただきました資料に基づいて教室内の人事ワーキングおよび教室会議で厳正に議論をし、現在〇〇名の方を第二次選考の候補者として選びました。大変残念ではございますが、貴殿はその候補にはなりませんでした。最終決定はこれからになりますが、選考にもれた方には早くお知らせした方がよいとの判断でここにご通知させていただきました。</p> <p>以上の結果になりましたことをご報告するのは大変残念に思います。貴殿の研究がこの結果によって滞ることなくさらに精進されますよう、今後のご活躍を心からお祈りいたしております。</p> <p>略儀ながらご報告させていただきます。</p> <p>尚、応募書類はお返しいたしません、返却ご希望の方はご連絡下さい。</p> <p style="text-align: right;">(25番)</p>

表2 不採用通知の結びの挨拶

横線は、結びの挨拶がないことを示す。1～30番は平成11～14年に受け取ったもの、31～79番は平成22～25年に受け取ったもの。

番号	結びの挨拶
1	今後のご発展をお祈りいたします。
2	_____
3	_____
4	_____
5	_____
6	_____
7	末筆ではございますが、あなたのますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。
8	_____
9	_____
10	_____
11	末筆ながら、貴殿の益々のご活躍をお祈り申し上げます。
12	末筆ながら、貴殿の今後のご検討をお祈り申し上げます。
13	_____
14	_____
15	_____
16	_____
17	重ねて、兼任教員公募に応募くださいましたこと、厚く御礼申し上げます。
18	末筆ながら、今後のご研究の豊かなご成果をお祈り申し上げます。
19	今後のあなた様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。
20	_____
21	重ねて、兼任教員公募に応募くださいましたこと、厚く御礼申し上げます。
22	_____
23	末筆ながら貴殿の今後の御発展をお祈り申し上げます。
24	_____
25	貴殿の研究がこの結果によって滞ることなくさらに精進されますよう、今後のご活躍を心からお祈りいたしております。
26	_____
27	_____
28	_____
29	末筆ながら、今後の益々の御活躍をお祈りいたします。
30	今後とも研究、教育にご尽力されますよう祈念申し上げます。

31	貴殿のますますのご発展をお祈り申し上げます。
32	末筆ではございますが、向後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。
33	_____
34	ご応募に深く感謝しますとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。
35	_____
36	今後のいっそうのご活躍をお祈り申し上げます。
37	今後の研究のご発展をお祈り申し上げます。
38	ここに感謝の念を表すとともに、貴殿のこれからのご活躍を祈念いたします。
39	末筆ながら、今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
40	_____

表2 つづき

番号	結びの挨拶
41	末筆ではございますが、今回のご応募にあらためて感謝を申し上げるとともに、貴殿の一層のご活躍をお祈り申し上げます。
42	_____
43	今後のご活躍を祈念するとともに、お知らせ申し上げます。
44	末筆ではありますが、植木岳雪様のより一層のご活躍をお祈りいたします。
45	今後のご健闘を心よりお祈り申し上げます。
46	_____
47	今後ますますのご健勝を祈念申し上げます。
48	末筆ではございますが、今後の貴殿のご活躍をお祈り申し上げます。
49	また、貴殿の研究が今後ますます発展されますことを心から祈念しております。
50	末筆ながら、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。
51	今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。
52	今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。
53	末筆ながら、ますますのご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。
54	_____
55	_____
56	末筆ながら、今後の貴殿のご健勝をお祈り申し上げます。
57	末筆ながら、先生の一層のご活躍をお祈りいたします。
58	末筆ながら、今後一層のご活躍をお祈り申し上げます。
59	こんごのより一層のご活躍をお祈り申し上げます。
60	末筆ながら貴殿の益々のご活躍を祈念いたしております。
61	今後のご健勝ご活躍を心よりお祈り申し上げます。
62	末筆ながら、ご健勝心よりお祈り申し上げます。
63	末筆ながら、益々のご活躍をお祈りいたします。
64	ご応募頂きましたこと、重ねてお礼申し上げますと共に、貴殿のますますのご活躍をお祈り申し上げます。
65	末筆ではございますが、貴殿のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
66	_____
67	今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。
68	末筆になりましたが、今後一層のご健勝を心からお祈り申し上げます。
69	_____
70	末筆ながら、今後のより一層のご活躍を心より祈念しております。
71	ご希望に添えなかったことをお詫び申し上げます。
72	_____
73	_____
74	末筆ではありますが、先生のより一層のご活躍をお祈りいたしております。
75	今後のご研鑽とご多幸をお祈り申し上げます。
76	_____
77	末筆になりましたが、貴殿のますますのご発展をお祈りいたしております。
78	また、今後とも本学へのご関心をお持ちいただければ幸甚に存じます。なにとぞどうぞよろしく願い申し上げます。
79	末筆ではございますが、植木様のご健康と研究のますますのご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。

表3 不採用通知の差出人

	組織の長	部局の長	学科等の長	担当教員	事務	なし	合計
平成11～14年	6 (20%)	16 (53%)	1 (3%)	4 (13%)	3 (10%)	0 (0%)	30 (100%)
平成22～25年	8 (16%)	17 (35%)	4 (8%)	11 (22%)	8 (16%)	1 (2%)	49 (100%)
合計	14 (18%)	33 (42%)	5 (6%)	15 (19%)	11 (14%)	1 (1%)	79 (100%)

Insincere phrases in a rejection letter on researcher's public recruiting

Takeyuki UEKI

*Department of Environmental Risk and Crisis Management, Faculty of Risk and
Crisis Management, Chiba Institute of Science*

Insincere phrases were extracted from 79 rejection letters on researcher's public recruiting. From a period of 1999-2003 to 2010-2013, rejection letters became more simple and businesslike manners, and insincere phrases increased. Saving time and labor for recruiting administrator may be important to send a rejection letters to a number of applicants.